

各施設整備の  
取り組みは

**【質問】** 総合防災センター整備・総合給食センター整備・斎場整備、それぞれ19年度は具体的に何をするのか。  
**【答弁】** 総合防災センター構想は、国家的プロジェクトとしての意味合いもあり、国・県へ提案しその結果を受けて市の防災センター構想をまとめた。総合給食センターは、18年度のPFI可能性調査の結果を受けて19年度はアドバイザー事業によりPFI事業の実施方針を組み立てたい。斎場は迷惑施設としてのイメージが強いが、遠野市として誇れるような施設にしたいと考えている。19年度は市民懇談会を立ち上げ、施設のイメージやペットの火葬等も含めて検討していただきたいと考えている。

市民医療環境整備  
事業について

**【質問】** おでんセドクター推進補助の中の2,000万円について、これまでの説明では市内の医師の開業についても補助を出すということであったが変わりはないか。  
**【答弁】** 市内に新規開業する医師のみを対象とする。  
**【質問】** 補助金を出す場合、産婦人科医と小児科医に限定すべきではないか。  
**【答弁】** 記者発表以来様々ご意見を頂戴する中、産婦人科医と小児科医には厚くということで考えている。ただ、それに限定するものではなく、そのほかに利子補給制度、預託制度も合わせて考えている。記者発表の内容については、何としても医師確保をしたいという思いを発信したとご理解をいただきたい。

助産院ネットワーク構想の内容は

**【質問】** 遠野型助産院ネットワーク構想の内容は。  
**【答弁】** この構想は、妊産婦の不安解消、負担軽減を目的に、妊産婦の定期健診、育児相談、産後の母子ケア等をカバーする公設公営の助産院施設を設置し、安心安全な出産環境づくり「安産の里」を目指す構想である。県立釜石病院とモバイル健診を活用し、また緊急搬送体制も考えているが、出産は産科医のいる病院と

なる。さらに子育て支援機能となる経産婦の第一子、第二子等の保育、施設内勤務者や夜勤者の幼児あずかり保育も考えている。  
**【質問】** この構想は19年度どこまで進むのか。  
**【答弁】** 当初予算では、施設的设计委託と助産師の手当が主なものである。医療機関との交渉、理解が得られれば既存の遊休施設を改造することにより年度内に運営できるよう考える。



▲ 18年度で閉校になった大出小中学校

米の生産調整への  
対応は

**【質問】** 45%の減反という厳しい水田農業の状況下において、今度は品目横断的安定対策により市では組織育成を推進していかなければならないと思うが現在の進捗状況は。  
**【答弁】** 3月1日現在、15集落が組織されている。人数で771人、面積で590haとなっており、さらに6月までには7集落が予定、20年度にも7集落の見込みがあり14集落がプラスになる。  
**【質問】** 米の消費量減少に伴い将来50%の転作も視野に入れた施策が必要と思われる。米に代わる収益の高い作物として小麦、大豆が挙げられるが充分に取り組みの施策は。  
**【答弁】** 確かに転作が50%を超える可能性がある。国では、小麦、大豆に手厚く保護してくれる。技術的なことは普及センターと相談する。

大出小中学校  
跡地活用は

**【質問】** 大出小中学校跡地利用として500万円程度の予算が計上されているが。  
**【答弁】** 校舎の屋根の補修、駐車場整備などである。  
**【質問】** 跡地利用について市では、アイデアを公募するなど検討しているが、なんともいっても地元住民と協力が大切と思う。新聞掲載まで地元の人々が知らなかったという声があるが事前協議はなかったのか。  
**【答弁】** 学校再編を進めてきた過程の中で、地元には跡地利用の考え方も基本的にあったと思っている。  
**【質問】** 学校敷地に神社の所有地も含まれていると聞いているが、今までは無償で長年に渡って使ってきたと思う。これからはどのような形での利用になるのか。  
**【答弁】** 今までの調査も含め神社側と十分協議する。